



# 京都 YWCA 11 2025

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

## 太田興さん（防災士、京都 YWCA 会友）による防災講座 地震、水害、あなたは「自分事」にしていますか？

9月13日、サラーム居住者や職員を対象に防災講座「備えましょう 地震・水害 自分事にしていますか？」が開催され、講師としてお話をいただきました。

災害を他人事と考えているうちは、対策も甘く弱くなりがちです。「自分事」にするには（決して楽しいことではありませんが）、災害で困る将来の自分を具体的に想像して、自分を助けるために「今すべきこと」を考えることです。

### 南海トラフ巨大地震と京都

近年報道される機会が増えた南海トラフ地震ですが、京都には「沿岸部の話」「しばらく先の話」と、他人事のように聞き流す方もおられます。しかし1995年の阪神・淡路大震災の際、「西日本は地震活動期に入ったようだ」と言われ、その後鳥取西部、芸予（広島県・愛媛県）、大阪北部など西日本の内陸地震が続いてきました。南海トラフ地震発生に先立つ数十年間は内陸部で地震が続き、そして南海トラフ地震に至るとも言われます。南海トラフ地震前の内陸地震を自分事として考えましょう。

また地震に関して「京都は特別。もし昔から地震が頻発していたら、都が千年も続くはずがない。この町の安全は歴史が証明している」と言い切る人もおられます。しかし秀吉の伏見城を大破させた慶長伏見地震（1596）、五条大橋が損壊した寛文近江若狭地震（1662）、北野天満宮の灯籠の9割が倒壊した文政京都大地震（1830）などが記録され、京都御所には「地震殿」と呼ばれる避難用建物もあるなど、京都が何度も地震に見舞われてきたことは歴史が示しています。京都も油断できない場所であり、時期であるということです。

さて地震は突然発生するため、揺れた瞬間にその場で身の安全を確保する必要があります。だからこそ日頃から「安全な空間」を考えておくことが大切です。講座では参加者に自室の見取り図を描いていただき、就寝場所や玄関までの経路上の危険物を考える「危険箇所発見訓練」を行いました。

また停電想定も大切です。1日の半分は照明が必要な時間帯ですが、停電で真っ暗になると危険箇所が見えません。準備している懐中電灯も揺れでどこかに飛んで、行方不明かも

しれません。この状況で無理に行動してケガをすると、その後の行動が大幅に制約されます。停電時自動点灯照明器具（「ホーム保安灯」の名称で市販されています）を備えるなどして真っ暗状態を回避することは、ケガの防止の点で重要です。

### 大雨・水害について

地震よりも身近で頻度が高い災害が、大雨です。ゲリラ豪雨（局地的大雨）、線状降水帯、記録的短時間大雨情報など、この夏も大雨を表す用語を毎日のように耳にしました。講座では地下空間や冠水道路の危険性などを説明しました。自宅、行き先、経路上の危険箇所を事前にハザードマップなどを用いて知ることが大切です。当然ですが、冠水道路はプールのような透明の水ではありません。濁った水の下ではマンホールのふたが外れているかもしれません。危険な状態になる前に、安全な場所に移動しておきましょう。

（太田 興）



高齢者住宅フロアで実地の防災チェック



話に耳を傾ける高齢者住宅サラームの皆さん

## 戦後 80 年に寄せて②

### 中高 YWCA 全国カンファレンス 2025 にて「平和」について考える

8月6～8日、国立オリンピック記念青少年総合センターにて「中高 YWCA 全国カンファレンス 2025」が開催されました。京都 YWCA ユース委員会は、2日目に行われた分科会で「RiseUp！リーダーシップワークショップ 音楽×平和」を担当しました。

ワークショップは三部構成で行いました。第一部は「平和」についてです。「平和」とは何かをグループで考えました。中高生から出る意見は、戦争がないこと、食べるものに困らないこと、みんなが笑っていること等さまざまです。「平和」には世界規模のことから身近なことまで幅広く含まれていることを一緒に学びました。

第二部では音楽が社会を変えた事例として、ラップが貧困層の若者から誕生したことや、多国籍の人で構成されているオーケストラ楽団のことなど、音楽を通して逆境を乗り越え、平和を伝えようとしている人々がいることを紹介しました。第二部の最後には『海ゆかば』を流し、この歌が戦時中、戦後に国民へどのような影響を与えたのかを伝えました。音楽には社会を変える力があります。しかし、その力をどう使うかで、平和を創ることも戦争

に加担させることもできるのだと、中高生と共に考えました。

第三部では、ワークショップを通してそれぞれが学び感じたことを画像にまとめました。中高生と作成した画像は、京都 YWCA ユース委員会の Instagram（下記二次元コード）にて発信しています。中高生の想いが詰まった画像をぜひご覧ください。（古川 由布子）



中高生と作成した画像の一枚



京都 YWCA ユース委員会の Instagram

### カフェフリーデン「戦争×女性」を終えて

戦後 80 年を迎えた今年の 8 月。京都 YWCA 平和・環境活動委員会主催で、「戦争×女性」というテーマで「カフェフリーデン」（しゃべり場）を開催し、映画『黒川の女たち』を題材にその感想を共有しました。参加者は 30 代～80 代という多世代にわたり、平和・環境活動委員会の委員や、京都 YWCA のよく見知った顔だけでなく、普段会館を訪れないという方々もおられました。

話題は映画の感想にとどまらず、戦時性暴力や被害女性の語り、その尊厳回復の過程、さらに記憶の継承の重要性にまで及びました。2 時間近くの間が短く感じたのは、壮絶な経験を繰り返し語り直した女性たちの言葉に、参加者が強く心を動かされたゆえでしょう。その場には、女性たちへの敬意と戦争への批判という熱が、参加者同士で共有されていたように感じます。

私個人としては、「開拓団は日本の縮図」という言葉が印象的でした。満州の開拓団の記憶を受け継ぎ語り合うことは、戦争を批判し現代社会を問い直す契機となるでしょうし、今回のカフェフリーデンはそうした会だったと思います。しかし同時に、記憶の継承や語り合いだけ

で未来の戦争を防げるのかという懸念も抱きました。第一次世界大戦後のヨーロッパの人々の悲哀と、その後のナチス政権への熱狂を想起すれば、その危うさは明らかです。ではどうするのか。

戦後 80 年を迎えた現在、戦争体験者が「ゼロ」となる近い将来を前に、私たちは改めて問わねばなりません。それが未来世代への責任であると、今回のカフェフリーデンを通して強く実感しました。

（片岡 英子）



多世代で意見交換をしました

## シリーズ

## 京都 YWCA 自立援助ホーム「カルーナ」10年の歩み (2)



2015年4月に京都YWCA自立援助ホーム「カルーナ」は2名の利用者でスタートしました。「安全、安心」な居場所の提供、自立のための就労支援、就労のための修学支援を目的とし、社会生活のための経験を広げる場として歩み始めました。山本知恵ホーム長（当時）を中心に、3人のスタッフで2人の利用者と話し合っ大まかな生活の約束事を決めるなど、手探りで模索する毎日でした。

環境整備、食事準備、学校やアルバイトへいくための起床の促し、学校の課題やテスト勉強の手伝い、アルバイト先探し、通院や役所の手続きの付き添い、進学のためのオープンキャンパスへの同行。児童相談所や社会的養護の他施設、学校など関係機関とのカンファレンス、利用相談、見学の受け入れ等々、利用者のケースに学ばせてもらいながら必要に応じて進めてきました。

スタート当初2名だった利用者が、7月以降毎月1人の新規利用者を受け入れ12月には定員の6名になりました。年が明けて成人のお祝いと新年会では、希望者が晴れ着を着て撮影会もしました。

利用者への直接的な生活支援とは別に、2016年1月に裁判所経由の利用者の受け入れも可能な「自立準備ホーム」の登録をしました。

3月には利用者の退所後の支援として、申請者に給付型奨学金を毎月支給することをめざして「カルーナ教育奨励基金」を設け、今までに10人が利用しています。またカルーナ1周年記念講演会を実施し、カルーナニュースの発行や、あちこちに出向いてカルーナを知ってもらうための活動もしました。

試行錯誤のスタート1年目でしたが、周りの方々の協力と応援をもらいながら、少しずつ前進していきました。（横川 宏美）



誕生日のお祝いは会員さんの手作りケーキで♪



リクエストのたこやきパーティ

## 夏休みの多文化子どもプログラム

8月25日、「多文化子ども夏休みプログラム」を実施しました。うだるような暑さが続く日々でしたが、小学生～高校生の子ども10名、支援者8名が参加しました。

プログラムのメインは「夏休みの宿題のお片付け会」でしたが、始業式目だったこともあり、すでに宿題を終えている子どもたちがたくさんいました（すごい！）。宿題が残っていた子どもたちも集中して取り組むことができ、終盤には「全部終わった」「始業式には間に合いそう」とホッとする声があがりました。

昼食は手巻き寿司パーティーを、最後の締めくくりにはスイカ割りを行いました。とくにスイカ割りでは、中学生のクリティカルヒットが決まって大盛況！楽しみながら、気持ちよく2学期を迎える準備ができました。（中瀬 萌）



スイカ割りの様子。きれいに割れました！

## 夏休み小学生の居場所

## 「ガジュマルの樹」

8月22日、今年も夏の小学生対象の居場所プログラムを行いました。午前は多文化共育プログラムメニューによる「ことばで『世界』を探検しよう！」。

見慣れない文字やいろいろな言葉の音などクイズを交えて楽しみました。最後はハングル文字で自分の名前を書いたり、塗り絵をしたりしました。

午後は「楽しい科学実験『草木染』」です。タマネギの皮を煮出した汁で染めます。まずはキッチンペーパーでどのように染まるかを体験。その後は自分の持って来た布に染めました。おやつにはスイカ割りを、そして、プログラムの合間にはゲームや絵本の読み語りもあり、子どもたちは「楽しかった」と言っていました。（安藤 いづみ）



さまざまな国の言葉にふれました



## 「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」事業へのご支援のお願い

京都 YWCA はさまざまな事業を通じて多様な人々がふれあう「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」を進めています。これをさらに持続的・発展的に進めるために、ご支援をお願い申し上げます。ご寄付は事務所窓口にて、あるいは郵便振替、オンラインをご利用いただけます。



郵便振替 01080-9-1566

加入者名 公益財団法人京都 YWCA

オンラインでのご寄付はこちらから

<https://congrant.com/project/kyotoywca/4775>

活動を指定したご寄付等の詳細は事務所に問い合わせ

ていただくか、ホームページをご覧ください。

<http://kyoto.ywca.or.jp/support>



### 賛助員を募集しています！

賛助員となって京都 YWCA を持続的に支えていただく方を募集しています。以下のサイトからオンラインでもお支払いいただけます。

<https://congrant.com/project/kyotoywca/11953>

賛助費（年額）個人：5,000 円または 10,000 円

団体：10,000 円 / 一口



### ご協力ありがとうございました

2025年8月1日から9月30日までの寄付者一覧（敬称略、順不同）

#### 各指定寄付

##### \* 法人支援

別所加恵、井上依子

##### \* 活動総務

井上依子、匿名 1 名

##### \* APT

仲本直子、安藤いづみ、ヘイナ啓子、リンパヤラヤ・スプラーニー

##### \* 活動グループ

手話サークル

##### \* 多文化共生委員会

筒井奈都子、一色光世

##### \* 平和・環境委員会

今井貴美江

##### \* ふれあいの「居場所」事業部委員会

若者就職支援まかない募金

##### \* 自立援助ホーム「カルーナ」

井上ゆかり、別所加恵、船越克真、吉田紀子、匿名 2 名

##### \* 子ども・若者の居場所「Y ここ Kitchen」

齊藤大輔、別所加恵、井上依子、匿名 1 名

##### \* 賛助費

佐伯昌和、中川愛子、上村剛土、窪田左知己、吉田繁

## 今後のプログラム

### ◎あきまつり

子どもも、おとなも、よっといで！ みんなで秋の午後を楽しもうよ！（参加申込不要です）

■日 時：11 月 23 日（日・祝） 13：30～16：30

■場 所：京都 YWCA

■参加費：親子（子どもとおとな各 1 名）1,000 円、子ども 500 円、おとな 700 円 1 歳未満は無料

■内 容：聴くだけじゃない音楽会、親と子のリズム遊び体験、かんたんクラフト、絵本のお部屋、みつろうワークショップ、多文化体験（インドネシア舞蹈）、ビッグアートなど

■京都 YWCA 親・子育て支援活動委員会・京都 YWCA あじさい保育園

### ◎クリスマスキャロルナイト

メッセージと音楽でクリスマスをお祝いしましょう。

■日 時：12 月 12 日（金）18：30～21：00

■会 場：カトリック河原町教会（河原町三条上ル）

■参加費：500 円（大学生以下無料）

■内 容：礼拝、コンサート、近隣でキャロリング

※キャロリングでは、クリスマス賛美歌を歌いながら、寺町商店街・新京極商店街・三条通りを巡り、京都 YMCA まで歩きます。

■申込・問合せ：京都 YMCA 事務局 honbu@kyotoymca.org

■主 催：クリスマスキャロルナイト実行委員会

### ◎京都 YWCA クリスマス集会

おとなも、子どもも、みんなでクリスマスをお祝いしましょう。

■日 時：12 月 20 日（土）13：30～15：00

■場 所：京都 YWCA

■参加費：500 円（お茶とお菓子をご用意します）

※25 歳以下の方は無料です。

■内 容：コーラス、クリスマスメッセージ、絵本の読み語りなど

■主 催：京都 YWCA 運営委員会

■協 力：京都 YWCA 親・子育て支援活動委員会

### ◎YWCA・YMCA 合同祈禱週集会

YMCA・YWCA の祈りと奉仕の歩みが始まってから 150 年の節目の年に、カンボジアで売られる子どもをなくすため行動を起こした男性を追った映画を観て、何ができるかを共に考えませんか。

■日 時：11 月 29 日（土）13：30～16：00

■会 場：日本キリスト教団室町教会

（京都市上京区室町通丸太町上る大門町 270）

■参加費：1,000 円 ※当日、会場受付にてお支払いください。

■内 容：映画『OKA は手ぶらでやってくる』鑑賞、グループ交流

■主 催：京都 YWCA、京都 YMCA

## 9・10月／理事会報告

- 9/13：「防災について理解を深める会」おもに高齢者住宅サラームの入居者を対象に実施（本誌 P1 参照）
- 9/13：あじさい寮への留学生 16 名の入寮オリエンテーションと歓迎会を実施
- 10/4：サラーム運営懇談会実施

- 10/9：第 13 回京都 YWCA あじさいプロギング「秋のさわやか鴨川編」実施
- 10/25：第 4 回「地球にやさしい人とのをつなぐプチマルシェ」開催

KYOTO YWCA No.589 2025 年 11 月号（11月1日発行）

発行人：山中あかね

発行所：公益財団法人京都 YWCA

〒602-8019

京都市上京区室町通水上上ル近衛町44

電 話：(075)431-0351

FAX：(075)431-0352

e-mail：office@kyoto.ywca.or.jp

HP：http://kyoto.ywca.or.jp

郵便振替：01080-9-1566

口座名義：（公財）京都 YWCA

定 価：1 部 50 円

発 行：奇数月 1 日発行